強さ

瞬牙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
強さ

【Nコード】
N3369BA

【作者名】
瞬牙

【あらすじ】
シカマル視点のお話。
ナルトの大切にしていた狐が殺されってしまったことがお話の始まり。

ナルトは強くて弱い。

誰にも涙を見せない。

確かにそれも、一種の強さだろう。
どれだけ辛くとも、どんなに高い壁でも、
独りで乗り越えてしまうから。

でも、その強さは弱い。

一点を超えたら、爆発してしまうだろう。

今みたいに。

「うわあああっ！うわわああああああああああああああああああああああああ……！！！」

俺の胸の中で泣きじゃくっているナルト。

直接の原因は、最近仲良くしていた狐が里人に殺されたから。
いつもだったら、真面目な顔でゴメン、と狐いって、周りの俺達に
は明るい笑顔をみせたんだろう。

中忍試験での死闘。
大蛇丸木の葉崩し。
なついていた三代目火影の死。
そのあとのサスケの里抜け。

今は、たくさんのことがありすぎた。

ナルトの心はもう、壊れかけていた。
それが、なぜだか俺にはわかった。
俺は狐の死を聞いて、走り出していた。

ナルトはお気に入りの場所がある。辛いことがあると、大抵ナルトはそこにいる。
俺はナルトのお気に入りの場所へ向かった。
「ナルト。」
「…シカマルってば？」
「ナルト、無理するな。」
「何いってるってばよ？俺は無理なんてしてないってばよ！」
ナルトは心底意味の解らない、という顔をつくっている。
「…」
俺は無言でナルトを抱きしめた。
「シカマルっ！？はなせってばよ！？」
ナルトはジタバタともがく。
ナルトは人に触れられることを嫌う。

いや、恐れる。

優しさに触れることを。

弱い自分を見られることを。

俺はそれを押さえ付けるように強く抱きしめる。
「シカマルってば！！」
「泣け。」
「な、にいって、るってばよ？」
「俺が、全部受け止めてやる。だから…」
ナルトがぎゅっと服を掴む。

「俺の前でぐれーさ、泣いてくれよ。」
肩がすこし濡れてきた。
「全部、吐き出せ。」
「うわあああっ！うわわああああああああああああああああああ……！！！」
一粒涙が流れたら、それは、滝のように流れ出した。

どれだけ時間が過ぎたのだろうか。
ここに来た時にはまだ明るかった丘の上にも、夕陽の光が差し込んでいる。
ナルトは泣き疲れて、眠ってしまった。
動かしたら、起こしてしまいそうだ。夏だから、このまま一晩くらいなら大丈夫だろう。
シカマルもナルトに寄り添い、眼を閉じた。

なかなか帰ってこないシカマルを心配したシカクとヨシノが探しにいくと、
二人は、里を一望できる丘の上で手を繋ぎ、寄り添いながら眠っていた。
シカクとヨシノは、二人をみて微笑み、自宅からもってきていたタオルケットをかけて、丘を後にした。

（後書き）

ナルトは強くて弱い。
そんなお話を書いてみたくなりました。ナルトが無理して笑っているんだろうなぁ、とか
真実の滝での鏡のナルトの言葉から書いてみました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3369ba/

強さ

2012年1月8日19時50分発行